

## 校内スモールステップルーム（SSR）の活用について 【墨田区立 A 中学校の取組】

### 不登校生徒の状況

対象生徒は、不登校状態から登校意欲をもつ状態に気持ちが回復したが、教室での一斉授業への参加に不安があり、段階的な支援による教室復帰が必要な生徒、または、登校渋りや連続した欠席など、不登校の初期の段階にある生徒としている。

### 具体的な取組

#### <相談機能の充実>

不登校対応加配教員または区配置の支援員が常時在室し、受け入れ体制を整えた。人間関係や学習など、個々が抱えている不安を受け止め、一時的に休息できる場として活用した。利用には、本人・保護者との面談を必須とした。

#### <環境整備>

多様な相談の場をつくれる勾玉型テーブルや、個別ブースを設けるための衝立を設置し、通常教室とは違う雰囲気となるよう環境整備を行った。



#### <学習支援>

数学と英語を中心に補充的な学習支援を行った。学校の生活時程に合わせてスケジュールリングし、個々の課題に合わせて利用できるようにした。



#### <運動や喫食の場の提供>

教室での給食に不安を感じている生徒もあり、少人数やブース内で喫食の場をつくった。また、軽く体を動かす時間を設け、心と体の健康を一体的に整えられるようにした。

### 成果

- 週1回のSC面談でしか登校できなかった生徒2名が、教員や支援員の支援により、週4回登校し、当室を利用できるようになった。
- 特定の教科の学習に苦手を感じ登校を渋っていた生徒が、当室を利用することで、安心して登校することができるようになった。

### 課題

- 当室を利用する生徒に対する支援目標の設定と、その目標について担当支援員と学年・担任と共有するとともに、連携した支援を十分に行うこと。

## 校内スモールステップルーム（SSR）の活用について 【墨田区立B中学校の取組】

### 不登校生徒の状況

#### 【対象生徒】

- 登校渋りなど、不登校傾向が見え始めた生徒
- 学校外の支援機関から復帰を目指す生徒
- 引きこもり状態などで登校の支援が必要な生徒

### 具体的な取組

- 教員や支援員との人間関係を構築しながら、学習の支援や相談を行っている。
- SSRの担当教員や支援員、SSRを利用する生徒同士の関わりから、安心感を得たり、コミュニケーション能力を高めたりして、登校への不安を軽減させるようにしている。



- 担任や不登校担当教員、支援員と来室時間の計画を立てて利用する。
- プリントやワークを進めながら授業内容が理解できるように集中して学習に取り組むようにする。
- 各教科の教員がSSRに来室し、取り組んだ課題をチェックする。
- オンライン授業に参加することも推奨している。

- 学習に対して苦手意識のある生徒も、美術科や家庭科などの作品づくりに意欲的に取り組んでいる。
- 作品の仕上げを美術室や被服室で行うなど、他の生徒も利用する教室で作業することによって、教室復帰に向けて自信をつけさせるようにしている。完成した作品は文化祭等で展示することで成就感を高めている。

SSR内で給食を食べることもでき、生活習慣を整えるきっかけにしている。また、教室復帰の一步につなげるため、給食を教室に自分で取りに行くこともある。

### 成果

- 生徒にとって「ほっとできる場所」や「自信をつけられる場所」になり、登校回数や学習時間が増えた。
- 基本的な生活習慣を身に付け登校するリズムをつくり、学習意欲の向上にもつながった。

### 課題

- 校内ルーム登校の習慣が付いた生徒への教室復帰に向けた支援計画を作成すること。
- 学年教員や担任とSSR支援員のより密な情報共有と連携をすること。